

17 歯科技工士学科第8回卒業生の就業状況調査 —在学時の成績と継続就業率について—

中澤孝敏, 相馬泰栄, 植木一範
明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords : 就業状況, 追跡調査, 成績, 継続就業率

はじめに

近年においても日本社会の雇用状況は改善せず, 若者の継続就業率の低さが社会問題化している. 今回, 歯科技工士学科第8回生の就業状況に対して卒業後1年と卒業後6年間の追跡調査を行ったので報告する.

対象および方法

対象: 平成18年歯科技工士学科卒業生67名

方法: 電話による個別調査

結果および考察

1. 6年間の技工就業状況について

卒業後1年では, 男子に比較して女子の就業率が高いのに対し, 3年後では, 女子の離職が男子を超えた. 6年間では, 男子が4割, 女子は5割を超えた. (図1)

2. 卒業後1年および6年間の就業先について

卒業後1年では男女とも歯科医院勤務が10%台で, 歯科技工所勤務が70%を超えていた. 卒業6年間では女子の歯科医院勤務は3倍強の46.7%に増えた. また技工所勤務が2割近く減り60%になった. 一方男子は, 歯科医院勤務は微増したものの, 技工所勤務が約1割増加し85%になった.

3. 現在の就職先に対する満足度について

女子は, 「充分満足」と「普通」という回答に2極化した. 男子の満足度は「普通」が40%を占めたものの満足度の理由は分散していた. その理由では, 男女とも「上司や仲間と楽しく働ける」が一番多かった.

4. 在学時成績と継続就業状況の比較

在学時2年次の総合成績と継続就業率を比較した結果, 女子では, 学科成績と継続就業率に相関関係

がみられた. 男子では, 「良」や「可」においても継続している状況も認められた. 実習成績では, 男子の「優」において辞めていない状況が明らかになり, 成績との相関も認められた. 在学中の実習成績は, 継続就業に大きな影響があると言える(図2).

5. 将来の構想について
男子は「独立開業」に35%. 「その他の構想」は分散した. 女子は「定年まで勤める」が60%と「特に考えていない」が26%でほぼ2極化を示した.

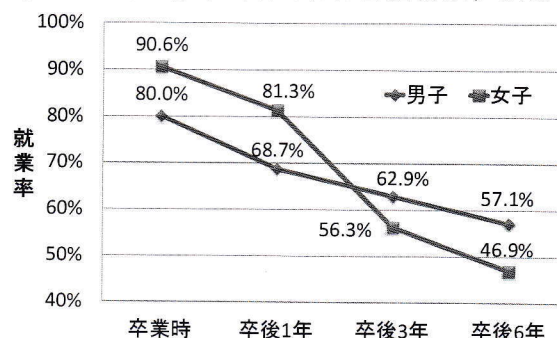


図1 卒業後6年間の技工就業状況
在学時学科成績 在学時実習成績

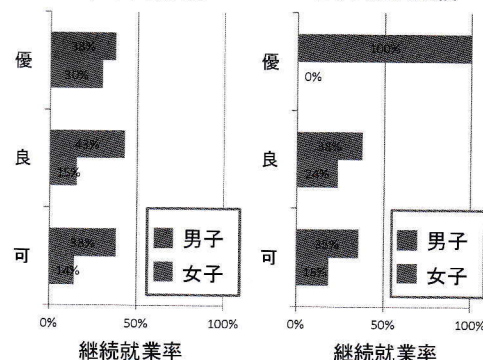


図2 在学中の成績と6年継続就業率の関係

まとめ

在学中の成績は, 歯科技工に継続して就業する上で, 重要な因子になっていることが明らかになった.